

社高教育課程実践モデル事業通信

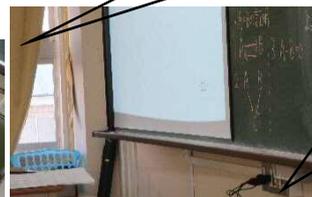
2号 2017.12.22

岡山芳泉高校 コミュニケーションディを参観して（数学編）

平成29年11月15日に参観してきた授業のうち、数学の授業等について紹介します。

〔ICT 機器環境の充実〕

吊り下げ式プロジェクターの常設
着脱式スクリーン（ケースに入れて教室保管）



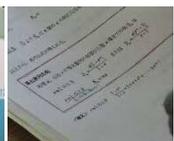
遮光カーテン

接続は壁面で。



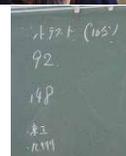
〔使用教材の工夫〕

単元毎の書き込み教材（冊子ノート）で、板書・ノートの時間短縮。（単元毎は、作成時間の都合）
書き込み式問題集を準備させておき、進度が早い生徒が取り組み、次回解説。
追加教材はプリントで準備。



〔授業のスタイル・流れ〕

基本は、一斉指導（グループ学習は少ない）。
目標の提示 授業者によっては、口頭のみ。
手順の提示 あっても取り組む問題をメモ書きする程度。
ふりかえり 主に授業の最初の小テストや宿題の確認。
プロジェクターのソフト上で解説を書くこともある。



〔対話的な活動や評価方法の例、批判力の育成〕

ペアワークで宿題の確認（一方が他方に解説）
解答を見せ合い、記述で伝わっているかの確認
挙手により、考え方や理解度の確認（多くの授業者が利用）
採点するとしたら、何点か考えさせる。

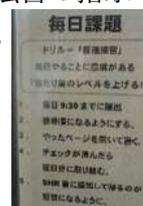


〔反復学習の習慣化〕

提出BOX 個人毎のBOXを廊下に常設。
係や担当教員が適宜、返却。
（全教科で利用されている。）



数学科独自の指示もある。



〔全体を通して〕

まったく新しいことをやっているというよりは、これまでのスタンダードなスタイルの中に、新しいものを取り入れているという印象でした。

（数学科 藤井政之）